

白浜レスキューネットワーク通信6月号

〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 3137-8

TEL&FAX0739-43-8981

<http://www.aikis.or.jp/~fujiyabu/nrsv1.htm>

e-mail yabiumi@yahoo.co.jp

理事長 藤藪庸一

郵便振替 00920-6-85589 口座名：白浜レスキューネットワーク
紀陽銀行白浜支店普通預金 589389 口座名：NPO特定非営利活動法人
白浜レスキューネットワーク

自殺者救済活動

6月1日～6月30日

電話件数 93件

保護件数 3件(男性2人、女性1人)

○9日午前、以前関わったことのある男性から電話があった。付き合っている女性と部屋にガスを充満させ、睡眠薬を飲み2人で自殺を凶っていた。すぐに男性の住む近くの警察に連絡し、保護してもらった。その後、当NPOを支援して下さっている臨床心理士が本人たちを引き取り、車で連れて来た。

○17日、男性を保護した。

○21日、女性が今後、ここで生活をやり直すかどうかを踏まえ、一泊二日で共同生活を見に来た。

○23日、60代の男性を保護した。今年の1月に仕事の契約が切れたこと、借金の問題を抱えていることなどもあり、生活に困窮し「死にたい」とも思うようになっていた。本人が役場に相談に行き、当NPOにつないでもらった。共同生活に加わり、生活を立て直していくことになった。

生活自立支援活動

6月1日～6月30日

滞在者数 10人(男性9人、女性1人)

自立 4人(男性3人/女性1人)

自主退所 4人(男性3人/女性1人)

○5日、先月就職先が決まった50代の男性と昨年の9月に共同生活に加わった50代の女性が結婚した。県内の旅館に住み込みの仕事のため、ささやかな結婚式をしたのち、新しい生活に移っていった。

○6日、共同生活に加わって3年ほど経つ50

代の男性が、近くのアパートに移った。アパートに移ったのちも、まちなかキッチンで働きながら自立した生活を送っている。

○14日、今月9日に男性と共に保護した女性が、元の場所へと戻っていった。生活保護を受けていたため、元の場所でやり直すようだ。

○20日、17日に保護した男性が元の場所へ戻っていった。

○22日、9日に女性と共に保護した男性が、元の場所へ戻っていった。

○26日、まちなかキッチンで働きながら自動車学校に通っている30代の男性が、最終試験を受けてから帰って来なかった。試験に落ちたことで戻りにくかったそうだ。翌日の夜、近くのコンビニにいるのを理事長がを見つけ、共同生活に戻った。

○29日、1月に保護し、旅館で働いていた70代の男性が、職場の寮へと移っていった。どこまで続くかわからないが、体が動く限りがんばりたいと前向きな気持ちで移っていった。時折、顔を出してくれる。無理のないようにがんばってもらいたい。

○30日、先月の20日に保護した30代の男性が、梅採りで得たお給料でアパートを借りることができそうなので、そちらに移りますと出て行った。本人、行政、当NPOで話し合い、今後も見守っていくことになった。ただ、梅採りの仕事がもうすぐ終わるため、今後どうやって生活していくのかが心配だ。

自殺予防活動

・まちなかキッチン

弁当部門は、メンバーの調整をおこない、惣菜部門で働いていた男性を調理担当として配置した。今月も目標個数を達成することができ、メンバーに特別手当を出した。

惣菜部門は、店舗も移動販売も売上が伸び、目標を達成することができた。移動販売先を一つ増やした。惣菜を何種類か詰め合わせにしたお弁当の製造、販売も少しずつ定着してきた。

・放課後クラブ「コペルくん」

毎日平均10人の子どもが参加した。時間を計るなどの先月から新しく取り入れた工夫が、徐々に子どもたちにも定着してきた。人数が少ない日には、早く宿題を切り上げて白良浜で遊ぶなど、遊びの面にも工夫をした。勉強と遊ぶことのバランスを子どもたちにしっかりと保たせたい。

夏のコペルくんサマースペシャルに向けて計画を立て始めた。また、夏のボランティアも募集をスタートした。



・フードバンク

白浜町内に住む2名の男性に弁当の無料配布を行った。

・相談電話

1日、8日、15日、22日、29日に行なった。今月も1人の相談員が休まず電話相談にあたった。